

虎屋 京都ギャラリー第 19 回企画展

2019 年 3 月吉日

ギャラリー開設 10 周年

土蔵が見守る 京のとらや 展

2019 年 4 月 20 日 (土) ～5 月 19 日 (日)

於：虎屋 京都ギャラリー (虎屋菓寮 京都一条店横)

虎屋は京都で生まれ、明治の東京進出後も京都の店を大切に守ってきました。京一条の地には、江戸の昔から残る土蔵が今も変わらぬ姿をとどめています。今回は、虎屋 京都ギャラリー開設 10 周年を記念し、創業の地、京都での虎屋のあゆみを振り返ります。



江戸時代から残る京都店の土蔵



昭和初期の京都店（上）と現在（下）

○江戸時代から伝わる家宝？ 家紋入金屏風

「円中（えんちゅう）に人あり」とも言い習わしてきた、虎屋の店主黒川家の家紋。虎屋にはこの家紋をあしらった幕を描いた金屏風が伝えられてきました。古くは土蔵に保管されていたこの屏風を、発祥の地京都で初公開します。

○鉄斎さんが描いた饅頭売り

虎屋と縁の深い日本画家富岡鉄斎が特に可愛がっていた当時の京都店支配人に与えた「饅頭起元図」。饅頭発祥の逸話とともに描かれているのは饅頭売りと客の子どものようですが、饅頭なのに棒に刺さっている！？謎多き作品をぜひ実物で御覧下さい。

○意外にバラエティ豊か！？“土蔵写真集”

江戸～明治～現在と、店や菓子製造場が姿を変えても、同じ場所で「京のとらや」を見守ってきた土蔵。喫茶のテラス席からも望めるどっしりとした姿には、どこか安心感があります。築 160 年の歴史ある土蔵の姿をミニ写真集でもお楽しみください。

このほか、大正時代頃に四条通の御旅所^{おたびしょ}近くに出店していた“しるこ屋”の看板や、十五代店主武雄と親交の深かった日本画家・^{まつもといちろう}案本一洋の作品、虎屋 京都ギャラリーの名物企画「虎屋京都清談」で生まれた「流星」をイメージした青瓷（磁）の食籠もご紹介。隣接の虎屋菓寮 京都一条店では期間中限定の喫茶メニューも予定しています。



安永5年(1776)制作のひなせいろう雛井籠 撮影：轟近夫



(左) 案本一洋「衣笠 朧月」(「四季京ノ山」の内)



(右) 四代諏訪蘇山 せいじりゅうせいすかしじきろう 青瓷流星透食籠

「四季京ノ山」シリーズは、近年まで京都限定商品のパッケージに用いられていた作品。案本一洋は十五代店主黒川武雄と同年であったことから親交を結び、虎屋には多くの作品が残っている。

青瓷流星透食籠は第2回虎屋京都清談「蘇山の青瓷」でお作りいただいた作品。虎屋京都清談は同じ講師と参加者が複数回集って交流するなかで、互いに作品と新作菓子をつくり上げる講座。



富岡鉄斎「饅頭起元図」

【展示概要】

虎屋 京都ギャラリー第19回企画展

ギャラリー開設10周年 「土蔵が見守る 京のとらや」展

期間：2019年4月20日(土)～5月19日(日) 午前10時～午後5時 入場無料 期間中無休

場所：虎屋 京都ギャラリー(虎屋菓寮 京都一条店横) 地下鉄今出川駅6番出口より徒歩約7分

展示品：近衛家熙「竹之図」、勝山琢舟「黒川家家紋屏風」、富岡鉄斎「饅頭起元図」、

案本一洋「衣笠朧月」(春)4月20日(土)～5月6日(月祝)、「比叡雨晴」(夏)5月7日(火)～19日(日)(「四季京ノ山」より)、竹虎蒔絵井籠、雛井籠ほか。

展示解説(予約不要)：毎週日曜日 午後2時～

※会期中、虎屋菓寮にて限定の喫茶メニューの展開も予定。

《本件に関するお問い合わせ》

株式会社虎屋 京都営業部文化事業課 京都市上京区一条通烏丸西入広橋殿町400 担当：相田・高木

電話：075-431-4736 Fax：075-431-1063 E-mail：kyotobunka@toraya-group.co.jp